

第2期舞鶴市まち・ひと・しごと創生総合戦略 (概要版)

(計画期間： 令和2年4月～令和7年3月)

基本目標① 将来に夢と希望の持てる活力あるまちをつくる

本市最大の地域資源である海・港を生かした産業はもとより、地域で築いてきた商工業基盤、全国に誇れる農林水産物や観光関連サービスなどの産業の高付加価値化、さらなるブランド力の向上を目指し、地域経済の安定、活性化を図ります。
地域の富を増やし、「舞鶴でやりたい仕事を見つけ、住み続けたい」「一旦外に出て戻り、舞鶴で働きたい」希望をかなえるまちづくりを進めます。



【数値目標】

○交流人口	253万人 (H30)	→	342万人 (R6)
○交流人口地域消費額	約146億円 (H30)	→	約218億円 (R6)
○生産年齢人口 (15～64歳) の就業率	75.2% (H27国調)	→	77.0% (R7国調)

(1)海・港を生かした魅力あふれるまち

- ①関西経済圏の日本海側の玄関口・京都舞鶴港を生かした産業の振興
(取扱貨物量 10,824kt→11,835kt)
(コンテナ取扱量 18,623TEU→34,833TEU)
(旅客利用者数 130,000人→184,000人)
(国際フェリー旅客数 0人→5,000人)
(国際フェリー貨物数 872TEU→1,000TEU)
- ②魅力を引き出す観光まちづくりの推進
(観光入込客数 229万人→310万人)
(一人あたりの観光消費額 1,700円 → 3,100円)
(赤れんがパーク来場者数 74万人 → 110万人)
(田辺城資料館入館者数 13,111人 → 16,000人)
(遊覧船乗客数 10,404人 → 24,000人)
(外国人観光旅行客数 12,857人 → 17,000人)
(インバウンド宿泊数 (海の京都管内) 66,000人 → 238,000人)

(2)地域産業が元気で、いきいきと働けるまち

- ①元気な事業者の育成による商工業の振興
(経営基盤強化等への支援)
(市制度活用による創業支援)
(新規立地・増設の件数 3件 → 10件)
- ②付加価値の高い農林水産業の振興
(万願寺甘とうの生産量 250t→315t)
(ふるさと舞鶴めぐりブランド推奨品の新規認定品 3 → 15)
(丹後とり貝の出荷金額 6,998万円 → 13,000万円)
(新規漁業就業者数 12人 → 50人)
- ③雇用の確保・安定と働きやすい環境づくり
(就業支援センター利用者の就職率 7.0% → 7.5%)
(市内3高校の新卒就職者の市内就職率 41.8% → 63.0%)

(3)次世代に向けた社会基盤整備

- ①さらなる交流促進に向けた交通基盤整備
(山陰新幹線京都府北部ルート誘致活動)
(舞鶴若狭自動車道の4車線化)
(山陰近畿自動車道)
(西舞鶴道路、青葉トンネル)
(白鳥トンネル)

基本目標② このまちに魅かれ、移り住みたくなるまちをつくる

舞鶴に住んでいる人にとって暮らしやすく、住み続けたいと思うまち、また、個人や企業がこのまちの多様な魅力に魅かれ、このまちに移り住みたくなるまち、離れていてもこの地域のために力になってほしいと思えるきっかけづくりを市民と行政が力を合わせて築き上げます。



【数値目標】

○定住人口の減少抑制	79,886人 (R1.10.1推計)	→	75,200人 (R6)
○移住世帯数	13世帯 (H30)	→	15世帯 (R6)

(1)このまちに魅かれ移り住みたくなるまち

- ①「移住者にやさしいまち・舞鶴」宣言
- ②まちなか・農山漁村への移住促進と活性化
(農山漁村移住者数 8世帯 → 15世帯)
(まちなかへの移住世帯数 (9世帯 → 31世帯))

(3)舞鶴ゆかりの人材や若者から応援されるまち

- ①関係人口の創出・拡大
(ふるさと納税寄付者数 個人版 619人 → 1,800人
企業版 0団体 → 100団体)
(Coworkation Village Maizuruにおけるセミナー、ワークショップ等の開催数 0回→20回)

(2)住み続けたいと思うまち

- ①次代の子どもたちへ伝える「ふるさと教育」の推進
(市長のふるさと舞鶴講義の開催 年7回)
(地元定着意識のある市内高校生の割合 32%→50%)
- ②戦略的な広報の推進
(まちの魅力を発信する市民の数の増加→50人)

基本目標③ 結婚・出産・子育ての希望がかなう、子育てにやさしいまちをつくる

妊娠、出産、子育てなど、安心して子どもを産み育てることができると同時に、子どもの豊かな育ちと成長が実現できるまちづくりを進めます。
また、0歳から15歳までの切れ目のない質の高い教育環境の充実や、子どもの健やかな成長を社会全体で支える環境づくりなど、学校や家庭、地域が相互に連携することで「子育てしやすいまち」の実現に向けた取組を進めます。



【数値目標】

○定住人口の減少抑制	79,886人 (R1.10.1推計)	→	75,200人 (R6)
○子育てしやすいまち満足度	57.5% (H29)	→	75.0% (R6)

(1)子育て環境日本一を目指すまち

- ①子どもの豊かな育ちを支える環境づくり
(質の高い乳幼児教育を実践する保育士確保)
(待機児童数 0件)
- ②親と子が安心して健やかに過ごすことのできる環境づくり
(子育て支援の充実)
(児童虐待の防止活動)
- ③夢に向かって将来を切り拓く子どもを育成するための環境づくり
(放課後児童クラブの質的向上)
(子育てに関する学びの促進)
(ICT教育環境の充実)



基本目標④ 生涯を通じて心豊かに暮らせるまちをつくり、次世代に継承する

人口減少や少子高齢化、局地化・複雑化する危機事象への対応など、今日的な社会課題に柔軟に対応しながら次世代に活力ある舞鶴を継承するため、効率的で利便性の高い安全安心な都市基盤の形成に努めるとともに、いつまでも健康で生きがいを感じ、生涯を通じて心豊かな生活を営むことができるまちづくりに努めます。



【数値目標】

- 便利なまちと思う人の割合 30.7% (H29) → 50.0% (R6)
- ふれあいや連帯感があるまちと思う人の割合 43.2% (H29) → 50.0% (R6)
- 安全に暮らせるまちと思う人の割合 72.9% (H29) → 80.0% (R6)

(1)舞鶴版コンパクトシティの推進

- ①将来にわたり暮らしやすさを維持する計画的な土地利用
(市街化調整区域における地区計画策定地区 0ha→90ha)
(居住誘導区域に居住する人口割合 8.99%→9.46%)
- ②住み続けたいまちを支える生活基盤づくり
(市内公共交通利用者 196.1万人→203万人)
- ③持続可能なライフラインの構築

(2)防災・減災対策の強化

- ①防災・減災機能の充実強化
(高野川流域における床上浸水被害解消率 0%→92%)
- ②多様な災害危機事象に対応する防災体制づくり
(避難タイムラインや地区防災計画の作成件数 1件→20件)
- ③災害に強い消防体制づくり
- ④地域防災力の強化・向上

(3)地域医療の確保

- ①将来にわたり安心して医療が受けられる体制づくり
(公的病院の医師確保)
- ②慢性期医療の確保

(4)みんなでつくる健康なまち

- ①すべての市民が健康に暮らすためのまちづくりの推進
(まいづる健やか応援団として認定する企業数等 0件→50件)
- ②生活習慣病の予防、介護予防等による健康寿命の延伸に向けた取組の推進

(5)安心して暮らせる支えあいのまち

- ①新たな時代に対応した福祉サービスの提供
(介護人材育成システムの強化)

(6)生涯を通じて健幸で文化的なまち

- ①歴史文化遺産の活用によるまちづくり
(引揚記念館来館者数の増加 9.5万人→12万人)
- ②文化を楽しみ創造するまちづくり
- ③スポーツを生かした元気なまちづくり
(近畿規模以上のスポーツ大会・合宿等の誘致等)
- ④いつまでも学び活動を続けることができるまちづくり

(7)豊かな自然環境を守り育むまち

- ①低炭素化の推進
(地球温暖化緩和策の推進)
- ②循環型社会の確立
(ごみ減量の取組)
- ③生物多様性保全の推進
(環境保全活動への参加人数 0名→50名)

(8)持続可能なまちづくり

- ①持続可能な行財政運営の推進
- ②持てる資産の効果的な活用
(公共施設マネジメント等)
- ③多様な連携によるまちづくり
(京都府北部5市2町の連携事業数 6件→15件)

横断的目標① 多様な人材の活躍を推進する

多様化、複雑化する地域課題の解決に向けて、市民団体や企業、金融機関、教育機関などの多様な主体との連携を充実・強化するとともに、市民一人ひとりが活躍できる環境はもとより、誰もが身近な地域で支えあいながら暮らせる環境づくりに努めます。

また、国籍や民族、習慣の違いを問わず、お互いの文化を認め合い、誰もが安心して生活できる多文化共生社会の実現を目指します。



【数値目標】

- 女性(25～44歳)の就業率 71.1% (H27国調) → 75.0% (R7国調)
- 高齢者(65～74歳)の就業率 37.8% (H27国調) → 40.0% (R7国調)
- 障害者の実雇用率 2.61%(R1障害者雇用促進法に基づく国調べ) → 2.7%(R6 ※)
※法定雇用率は令和3年4月に改定予定のため、新基準により算定

(1)共に助け合い地域が元気なまち

- ①地域のつながりと新しい地域コミュニティの創造
(中間支援組織と連携した取組数の増加 →5件)
- ②男女共同参画の推進
(講演会等への参加者数の増加)
(事業所支援セミナーへの参加企業数の増加)

(2)一人ひとりの人権が尊重されるまち

- ①人権意識の向上
(人権啓発講演会等への参加者数 1,100人/年)

(3)国籍や民族、文化の違いを互いに認め合い、多文化が共生するまち

- ①異文化理解の促進
(国際交流員による出前講座等 77回→90回)
- ②定住外国人への生活支援
- ③コミュニケーションへの支援
(日本語支援者の登録数 22人→35人)

(4)安心して暮らせる支えあいのまち

- ①高齢者や障害のある人が安心して生活できる環境づくり
(福祉施設から一般就労する人数 7人→37人)

(5)国防・海の安全を担うまち

- ①自衛官の入隊者数 (20人→30人)
- ②退職自衛官の市内再雇用者数 (10人→15人)

横断的目標② 新しい時代の流れを力にする

A I や I o T 等の先端技術を積極的に活用する中で、地方における Society5.0を実現し、SDG s 未来都市として、持続可能で誰一人取り残さない社会づくりを推進します。



【数値目標】

- 多様な連携による、SDG s の達成に向けた取組数 5件 (R1) → 20件 (R6)

(1)次世代に向けた社会基盤整備

- ①先端技術で活力を生み出すまち
(舞鶴版MaaS「meemo」の確立
住民ドライバー登録者数 0→200名)
(リカレント教育を受けた就職人数 0人→10人)
(防災情報の見える化(実証実験) 未着手→事業完了)
(マイナンバーカード取得率 10.2%→90%)
- ②環境価値を創造するまち
(再生可能エネルギーの導入)
(エネルギー拠点の形成)
(間伐材搬出材積 2,190m³→3,800m³)